

「改善の文化と風土を築いて」

木下前理事長が退職講演 4年間の足跡振り返る

6月18日付で退任した木下前理事長の退職講演会が10日（木）、1300講義室Lであり、集まった教職員を前に木下氏は2期4年間の理事長時代を振り返り、「改善の文化と風土を築きリーディング大学のひとつとなることを目指して」とエールを送りました。

木下理事長は、「すべての原点」とする大学、大学院時代に始まり、明治製菓、コンサルタント会社を経て、中心的な役割を果たした化血研の事業譲渡に至る自身の軌跡を概観しました。

さらに、令和3（2021）年3月に本学理事長に就任以来手掛けてきた共同研究講座の開設、民間・企業・行政のトップ級人材の招聘、健康・スポーツ教育研究センター設置、広報体制の強化、相次ぐ包括連携協定の締結などについて、改めて狙いや効果を検証。「未来に可能性を持つ若者を育てるという重い責任を果たすため、教職員、経営陣は何を考え、何をなすべきか、常に自己点検すべき」と語りました。

また、木下氏は、6月に実施した教職員アンケートを基に人事制度の改善、職場のコミュニケーション等に関する課題も指摘し、「改善可能

なところは山ほどある。有限な時間を意識し、即実行する勇気を持てば、ビジョンは開ける」と締めくくりました。（NL編集部）



集まった教職員を前に「リーディング大学を目指して」とエールを送る木下前理事長

熊本の10日間満喫 友情深め帰国



韓国・大邱保健大学からの交換研修生4人が10日間の研修期間を終え、11日（金）に無事帰国しました。10日（木）に開催されたさよならパーティーでは全員がプレゼン発表に立ち、韓国と日本の大学の学び方の違い、本学の充実した施設、学生たちとの交流や体験などについて、日本語で発表しました。

期間中、研修生たちは、講義参加や施設見学のほか、学生たちとも盛んに交流しました。4日（金）には、2人のサポート学生と知育菓子作りに挑戦。タルトやケーキ、チョコレートフォンデュなどに全員が「自慢」の腕を振っていました。また、8日（火）には、韓国文化研究クラブの学生たちと韓国料理のトッポギ、チャプチェ、チヂミを作りました。

このほか、研修生たちは、休日に阿蘇を訪れそば作りを体験するなど、熊本を満喫。さよならパーティーでは、顔見知りとなった本学学生たちと別れを惜しんでいました。

本学からは8月13～23日にかけて、10人の学生が交換研修生として大邱保健大学を訪問する予定です。（NL編集部）

韓国・大邱保健大の交換研修生



写真上は、さよならパーティーで記念撮影する交換研修生と関係者。同下は、チヂミづくりを楽しむ研修生と学生たち

「禁煙川柳」三賞決まる

学長賞) やめてやる 覚悟を決めて 火を消した(あーちゃん)

学生委員長賞) その1本 金と寿命を 燃やしてく(ばにばに)

事務局長賞) イップクの 間に失う 福一つ(ユニコ)

世界禁煙デー(5月31日)と禁煙週間(5月31日～6月6日)にちなみ、学生委員会、学友会が学内募集した恒例の「禁煙川柳大会」で、学長賞、学生委員長賞、事務局長賞の三賞が決まり、7月11日(金)、応接室で表彰式がありました。

5月10日～6月6日の募集期間に学生、教職員から禁煙への想いが詰まった力作計64句が寄せられました。このうち、学長賞に決まったのは、あーちゃんさん(投稿ネーム、1年看護学科)の「やめてやる 覚悟を決めて 火を消した」。あーちゃんさんは「看護師を目指している立場として、体に悪いことをやめてほしいという思いで書いた」と、作品に込めた狙いを語っていました。このほか、学生委員長賞には、ばにばにさん(看護学科1年)、事務局長賞にはユニコさん(看護学科教員)が選ばれました。

表彰式では、竹屋元裕理事長・学長、申敏哲学生委員長、河瀬晴夫事務局長が、三賞受賞者に表彰状と副賞のクオカードを手渡し、作品の講評を述べました。なお、大会では学生投票による人気作品も発表されました。(NL編集部)



表彰式後、記念撮影する受賞者(前列)と竹屋学長ら各賞の授与者

楽しく学んで 確かな“力”に

基礎セミナー発表会



スライドを使い、全員でマイクを回しながら発表をする学生たち

1年次教養科目「基礎セミナー」の合同発表会が16日(水)開催され、32のセミナー受講学生たちが、活動の成果を披露しました。

「基礎セミナー」は、学科・専攻を超えて共に学び交流を深め、チーム医療に求められる力を身に付けるのが狙い。初年次教育の目玉授業のひとつです。各講座のテーマは担当教員の専門分野、趣味、興味・関心を反映した多彩な内容で、学生たちは興味のあるセミナーを選びます。

この日の合同発表会は3会場に分かれて行われました。1300講義室Lでは11セミナーの発表があり、学生たちがスライドを使用して、ユニークな授業内容と学んだことを発表しました。このうち、『「平和」を学び、「平和」をもたらす人になる』(担当:東谷孝一教授)は、『平和をつくった世界の20人』という本を読み、印象に残った人を発表するというもの。マザー・テレサなどの名言や功績、どのような思いをもって平和を目指したかなどを報告すると、会場に集まった学生たちはメモを取りながら聞き入っていました。(NL編集部)

銀杏アラカルト

■宮崎・都城西高校生が来学 宮崎県立都城西高校フロンティア科の2年生11人が16日(水)、来学し、模擬授業を体験しました。一行は本学に到着後、入試・広報課の職員から本学の概要や医療職についての説明を受け、お昼には学食でランチを楽しみまし

た。さらに、同校卒業生の理学療法専攻4年次の馬場心太郎さんから大学生活や一人暮らしについて聞いた後、言語聴覚専攻の宮本恵美准教授の模擬授業を受講。生き生きとした表情で大学生気分を味わっていました。(入試・広報課)



母校の先輩の話を聴く生徒たち

どう組み立てていくか戦略を練って（写真左）、完成したパスタタワーを計測（同右）



全学1年次生「医療コミュニケーション」

力を合わせより高く！パスタタワー制作

全学の1年次生を対象とした「医療コミュニケーション」は、チーム医療に必要なコミュニケーション力を身につける授業です。学科・専攻ごとに内容が異なるため、担当教員の個性が光ります。7月1日（火）にキャンパステラスで行われた言語聴覚学専攻の講義（担当：松尾朗講師）は、3～5人で構成されたチームごとに、パスタで作ったタワーを完成させるというユニークな内容でした。

各チームに渡されたのは、20本のパスタとマシュマロ1個、それに紐とテープとはさみのみ。20分という制限時間の中で、どのチームよりも高い、自立したタワーを作らなくてはなりません。スタートの合図とともに、全員で話し合うグループや、紐とテープを切り始める学生、設計図を描きながら計画を立てるチームなど、取り組み方は様々。学生たちはこれまでの授業の中で、自分について学び、分析してきたため、どのようにしたらチームの役に立てるのか考えながら取り組みました。

1回目のチャレンジ後は、チームで対策を話し合い、再度挑戦！失敗から学んだことを生かすグループや「もっともっと高く！」と欲張ってタワーを倒してしまうチームもあり、キャンパステラス内は熱気で満ち溢れていました。（NL編集部）

言語聴覚学専攻「成人系聴覚障害学」

さまざまな検査法 身をもって学ぶ

言語聴覚学専攻の講義、「成人系聴覚障害学」では、聴覚障害に関する知識を身につけるだけでなく、各種聴力検査法の演習や平衡機能に影響する疾患、その検査法などを学びます。

7月2日（水）に3217、3218実習室で行われた授業のテーマは「平衡機能検査」。学生たちは、授業担当の佐藤公美助教から検査の意味や種類についての説明を受けた後、検査内容を体験しました。

この日挑戦したのは、両脚直立検査や書字検査など5つの検査です。中でも学生たちの反応が一番大きかったのは「足踏検査」。目を開けた状態と、目を閉じた状態でそれぞれ100回足踏みをし、検査を始めた場所からどれだけ動いたかを見ます。目を開けた状態では、うまく足踏みしていた学生たちも、目を閉じたとたん不安になったのか「わ～」と声を上げたり、うまくバランスが取れずふらふらしたり…。中には、前や横に進んでいく学生もいて、検査結果が人それぞれ違うことを、身をもって学んでいました。（NL編集部）



目を閉じたままその場で足踏みをすると、横にずれる学生も…

週間行事予定（7月22日～7月28日）

7/24（木）	国際シンポジウム
7/25（金）	臨地実習適格認定書授与式（助産）